

八王子消化器病院ニュース

第80号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

— 患者様のための医療 —

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL : 042-626-5111

www.hachiojishokaki.com

制作 (株) 教育広報社

おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



生活習慣病から 膠原病・関節リウマチまで

東京女子医科大学附属足立医療センター
内科 准教授

高木 香恵

私は、東京女子医科大学病院（現在は、東京女子医科大学附属足立医療センター）から派遣され、当院で週1回の外来診療を行っています。元々は、関節リウマチを含めた膠原病疾患を専門としておりますが、痛風も専門分野であるため当院では同疾患を中心とした生活習慣病外来を担当しています。一方、昨今では関節リウマチや全身性強皮症等の膠原病疾患について近隣医療機関から紹介を受けるケースが増え徐々に、これらの患者さんの割合が多くなってきました。そこで今回は、ご相談の多い関節リウマチについて解説いたします。

関節リウマチは、関節の内面を覆っている滑膜（かつまく）に炎症性サイトカイン（炎症反応を促進する働きを持つタンパク質）が産生され、炎症をきたすことで発症する自己免疫性疾患です。日本では人口の0.5〜1%が罹患する比較的頻度の高い全身性免疫疾患で、男女比は1:3〜4であり女性に多い病気です。自己免疫性疾患は本来、細菌やウイルス等から自分を守るはずの免疫機能が何らかの異常をきたし、身体を攻撃してしまう疾患です。関節リウマチの病因は明らかではありませんが、遺伝的要因と環境的要因が組み合わさって発症するものと考えられています。10〜15%で遺伝的要素の関与が考えられており、その発症と関連する遺伝子は100種類ほど報告されています。

ます。また、環境因子として喫煙、歯周病、副鼻腔炎、気管支炎等の慢性呼吸器疾患等との関連が報告されています。

関節リウマチの主な症状は、関節のこわばりと関節炎です。関節のこわばりとは、関節が思うように動かなくなることです。更年期の方や他の病気でもみられますが、この疾患では起床時に通常1時間以上と長時間続くことが特徴です。また、関節炎は、疼痛のみならず腫脹を伴い手首や手指の関節に起こることが多いです。1つの関節のみではなく多関節に出現すること、同日とは限りませんが左右対称に生じることもあります。関節の炎症が長期間継続くと軟骨や骨が少しずつ破壊され、変形や脱臼、強直、拘縮を引き起こし、日常生活に大きな支障をきたします。また、関節リウマチの疾患活動性が高い時期には発熱、倦怠感、体重減少、食欲不振といった全身症状を伴うことがあります。更に、関節のみならず上強膜炎（眼疾患）、皮膚潰瘍、多発単神経炎（運動・感覚障害）、腎障害、間質性肺炎等の肺病変、血管炎等の多様な症状を認めることがあります。特に、間質性肺炎は関節リウマチの20〜30%にみられ予後を左右する重要な合併症です。

関節リウマチと診断するためには、関節所見を確認することが最も重要ですが確定診断のために血液検査や画像検査も行います。

血液検査では炎症所見や疾患特異抗体といわれる抗CCP抗体やリウマトイド因子等を測定します。なお、これらは陽性であっても必ずしも関節リウマチの診断に至らなかったり、逆に陰性であっても診断される場合があります。画像検査はレントゲン撮影が一般的ですが、特に骨びらん本疾患の特異的所見です。関節リウマチは、急速に進行することが判明しており、早期診断・治療が肝要となります。

治療の第一選択薬は抗リウマチ薬のメトトレキサートで、関節リウマチ患者の60〜70%が使用している同疾患のアンカードラッグ（中心的薬剤）です。有効性が高い薬剤ですが使用にあたり高齢や腎機能低下等のリスクのある患者さんは、少量で開始する必要があります。また同薬で治療ができない方もいます。その場合には別の抗リウマチ薬を選択したり、疾患の活動性が高い場合は生物学的製剤やJAK阻害薬を選択します。生物学的製剤とは、関節リウマチの発症に関与する炎症性サイトカインを抑制する作用のある物質を改良して作られた比較的新しい薬剤で、現在8種類あります。また、JAK阻害薬とは炎症に関わるヤヌスキナーゼ（JAK）という酵素の働きを阻害することで関節リウマチの炎症を抑える治療薬で5種類あります。

治療の進歩により関節リウマチは「Cure」から「Cure」できる疾患となりました。それに伴い、高齢の関節リウマチ患者さんも増えていますが、他に治療中の疾患があったり、腎機能・代謝の低下を認める等するため、治療には細心の注意が必要です。生活習慣病から膠原病・関節リウマチまで皆様が健やかな生活を送られるよう、今後も診療に取り組んで参ります。

院内探訪 1

～私たちの取り組み～

いかなる時でも命を守る ～備えよ常に～

防災対策委員会 副委員長 秋野 哲男

災害救援ボランティア推進委員会
上級セーフティリーダー(地域防災インストラクター)

多数の尊い命が失われ甚大な被害をもたらした東日本大震災から12年、関東大震災からは100年が経過しました。我が国の周辺には、4つのプレート(太平洋プレート、北米プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレート)が存在し、その境界で多くの地震が発生します。これが『地震大国日本』といわれる所以です。このように日本に住んでいる以上は、地震から逃れられないのです。また、災害は地震だけではなく火災、停電、台風や線状降水帯等による水害、降雪による雪害等があり、それらが複合して発生する場合があります。

それでは、我々は何をするべきでしょうか。過去の災害事例を基に想定し、少しでも被害を軽減させるための対策を講じ、皆に周知する必要があります。特に、医療機関においては激甚災害時は通常診療が継続困難となり、限られた物資の中で患者の皆様の大切な命を守ることに努めなければなりません。当院では、2011年の東日本大震災以降、設備等のハード面の強化をはじめ、それらを取り扱う職員への教育・訓練にも防災対策委員会を中心に取り組んで参りました。以下、当院における防災対策について、ご紹介させていただきます。

◆建物・各種設備

◆建物
新耐震設計法に基づき建築され、耐震構造となっております。また天井、壁は不燃材を使用しています。

◆消防設備

◆消防設備
院内の熱・煙感知器に連動した自動火災報知設備、スプリンクラー設備、排煙設備、防火扉、消火用散水栓等を完備しています。

◆電気設備

◆電気設備
停電時にも最低限の病院機能を維持するため、非常用自家発電機、ポータブル発電機、コージェネレーションシステム(都

市ガスを燃料とし、発電すると同時に発生する熱を冷暖房・給湯等に利用するシステム)を備えています。

◆エネルギー・燃料

◆エネルギー・燃料
自家発電機用燃料タンク(想定連続稼働72時間)の備蓄と共に、タンクローリからの給油システムも完備しています。

◆給水設備

◆給水設備
高架水槽および地下受水槽を備え、後者からは蛇口による手動給水が可能となっております。

◆照明器具

◆照明器具
停電時等の暗所作業等に備え、各部署にLEDランタン、ハンディライトを配備

◆什器転倒防止

◆什器転倒防止
書棚やロッカー等が転倒しないよう、転倒防止器具を院内各所に設置しています。

◆ガラス飛散防止シート

◆ガラス飛散防止シート
病棟内の全ての窓ガラス、ガラス戸棚等にガラス飛散防止シートを貼付しています。また、1階ロビーは、強化ガラスとなっております。

◆エレベーター運転制御

◆エレベーター運転制御
エレベーター制御室にP波(初期微動)感知器付地震時管制運転機能を備えており、発震時には乗員の閉じ込め防止のため最寄り階に停止し、扉を開放します。

◆止水板・排水ポンプ

◆止水板・排水ポンプ
建物周囲から屋内への水の流入を防ぐため、各出入口に設置する簡易止水板を用意しています。また外部から、あるいは排水管の逆流等による浸水に対して、電動排水ポンプを備えています。

◆除雪機等

◆除雪機等
積雪時に通路・駐車場等を除雪するため除雪機、除雪用具(スノスコップ、スノーダンプ等)を配備し、患者の皆様が安全に通行・駐車できるよう職員一丸となって除雪いたします。

◆情報通信

◆地震計内蔵緊急地震速報受信機

◆地震計内蔵緊急地震速報受信機
発震時に内蔵の地震計でP波を検知すると共に、気象庁の緊急地震速報とも連動しているため、迅速かつ確実に地震発生を警告します。スマートフォン等が受信する一般向けの緊急地震速報とは異なり、同機では初期微動を検知すると気象庁のデータと照合し、何秒後に揺れが到達するかを瞬時に計算し、事前に発報します。震度5弱以上の場合は、全館放送が流れ

◆安否確認システム

◆安否確認システム
職員の安否確認はもとより、災害時に1人でも多くの人員を招集できるようなインターネット通信を活用した安否確認システムを導入しています。同システムでは、帰宅困難な職員が離れた家族の安否や所在を確認することもできます。

◆通信機器

◆通信機器
外部との通信機器として衛星携帯電話、業務連絡用として無線機20台を配備しています。また、電話(災害時優先電話を含む)交換機の電源は非常用電源等にも接続されています。更に、厚生労働省による広域災害救急医療情報システム(EMIS)が使用できる環境を院内複数箇所に設けています。



救命処置訓練の様子



◆災害時備蓄品

◇医療材料・薬剤

発災時、同時多発的に負傷者が発生した場合、トリアージ(治療の緊急性や症状の重症度等から優先順位を決め、治療等を行うこと)を実施しますが、入院患者用とは別に、そのための医療材料、薬剤を備蓄しています。

◇食料・飲料水

入院患者用・職員用として3日分、外来患者用として1食分(帰宅または近隣避難所への移動までの分)を備蓄しています。また、災害時に自動販売機の商品を無償提供できるよう各メーカーと災害救援ベンダー契約を締結しています。

◇プロパンガスボンベ・調理器具

災害時に少しでも温かい食事を提供したいとの想いから、備蓄食料は湯煎レトルト食品を準備しています。そのため、加熱用にプロパンガスボンベおよびガスコンロ等の炊き出し用調理器具を備えています。

ます。

◇トイレ・清拭布

患者用として携帯トイレ(便器取り付けタイプ)、職員用としてマンホールトイレを用意しています。また、平時のように自由に水を使用できなくなる可能性があることから、衛生管理のためにウェットシートを備蓄しています。

◇防寒具

停電等により暖房が使用不能となった際の防寒対策として、アルミ保温シートを備蓄しています。

◆教育・訓練

◇自衛消防訓練

夜間に火災が発生したことを想定し、通報・初期消火・避難誘導訓練を年2回実施しています。また、毎年4月の新入職者オリエンテーションにおいても防火・防災教育を行っています。

◇安否確認訓練

全職員に対して年2回、訓練日時を事前告知せずに通信訓練を実施しています。職員がシステムの操作に慣れること、また災害対策本部・各部署長が職員の安否や出勤の可否、予測来院時間等を把握することを目的としています。

◇被害状況報告訓練

年1回の法定電気設備点検(全館停電)を利用して、災害を想定し無線機と被害状況報告書を用いた各部署から災害対策本部への報告訓練を実施しています。

◇食事供給訓練

備蓄庫からの物資の搬出、貯水槽からの給水、調理器具の設置等の食事供給訓練を月1回のペースで開催し、各職員が体験しています。

◇止水板設置訓練

水害の発生を想定し、止水板の保管場所の確認および組み立て設置の実施訓練を行っています。

◇E M I S 通信訓練

E M I Sとは、広域災害発生時にインターネット上で各医療機関の被災状況や活動状況等の情報を共有(厚生労働省、都道府県、医療機関)し、迅速かつ適切な医療・救護活動を支援するためのシステムです。同システムの接続・使用方法の訓練を防災対策委員会および幹部職員にて実施しています。

以上、ハード・ソフトの両面から当院の防災対策を、ご紹介いたしました。実際の取り組みを通じて、対策には終わりがなくと痛感しておりますが、診療はもとより防災面においても安全・安心な病院であり続けるため、これからも努めて参ります。最後に、私達一人ひとりが過去に発生した災害を教訓とし、「想定外」を「想定内」として被害を最小限に抑える対策を講じることが、犠牲になられた方々への手向けになると信じています。



食事供給訓練の様子と、備蓄してある食料(上右)



自衛消防訓練
消火器を使った消火訓練(上)
シーツを使っの移送(右)



↑正面玄関の止水板設置訓練

予防接種のご案内
～ジェンナーからの贈り物～

上野恩賜公園の片隅にひっそりと、しかし力強く1体の銅像が建っています。「種痘醫祖善那君像」と銘打たれた、その像は18～19世紀の英国の医師エドワード・ジェンナーをかたどったものです。ジェンナーは、伝染力が非常に強く死に至る疫病として人々から恐れられていた天然痘の予防法として種痘(天然痘ワクチンの接種)を1796年に発明しました。これには、牛等の動物を宿主とする牛痘(ラテン語: Variolae vaccinae) ウイルス(実際には馬痘ウイルス)が用いられ、ワクチン(Vaccine)の語源となりました。なお、我が国では江戸時代後期に種痘が普及し始め、明治中頃の1896年には種痘発明100年を記念し、その功績を称えるべく冒頭のジェンナー像が建立されるまでになりました。

その後も種痘は、世界中に広まり発明から約180年の時を経て、1980年のWHO(世界保健機関)による天然

痘の世界根絶宣言に至りました。なお、天然痘は人類史上初にして唯一、根絶に成功した感染症といわれています。また、「近代免疫学の父」と呼ばれるジェンナーの業績は、天然痘ワクチンのみならず、その後の予防医学・免疫学の発展に受け継がれていきました。

時は流れて21世紀に生きる私達にとって、新型コロナウイルス感染症のワクチンを巡る一連の騒動は、記憶に新しいところです。“牛痘を接種すると牛になる”と言われ当初、ジェンナーは種痘の普及に苦勞をしたそうですが、昨今のインターネット上で飛び交うフェイクニュース等を目にするにつけ、医学は進歩しても人の心理は変わらないと考えてしまいます。一方、新型コロナ禍を経て予防接種に対する人々の関心が大きく高まったことも事実です。現在、我が国では生涯にわたり多くの種類の予防接種を受けられる機会がありますが、その効果や目的、副反応の可能性(国の設ける予防接種健康被害救済制度等を含む)等の正しい情報を得て理解し、有効活用することが肝要です。以下では、その中から本年度当院で実施している予防接種について、ご案内いたします。

◆インフルエンザワクチン予防接種

接種費用	①定期接種(下記の費用助成あり):2,500円(税込) ②任意接種:4,400円(税込)
対象者	16歳以上
費用助成制度	(八王子市高齢者インフルエンザ予防接種費用助成制度) ・接種当日、八王子市*に住民登録があり、(1)または(2)に該当する方 ※近隣市(町田市、日野市、多摩市、稲城市)にお住まいの方も接種可能です。 (1)65歳以上の方 (2)60～64歳で、特定疾患により身体障害者手帳1級相当の障害を有する方 ※市からの予防接種助成券等の配付はありません。
実施期間	2023年10月10日(火)～2024年1月31日(水) ※ワクチンの在庫が無くなり次第、終了とさせていただきます。

◆新型コロナウイルスワクチン予防接種

接種費用	無料
対象者	16歳以上 ・初回接種(1・2回目)を終えた方に限る。 ・接種当日、八王子市に住民登録がある方または、住所地外接種届出済証*をお持ちの方 ※他市にお住まいの方は、八王子市保健所に事前申請していただき、住所地外接種届出済証をご用意ください。
実施期間	2023年10月2日(月)～2024年3月30日(土) ※接種予約枠が満員となり次第、終了とさせていただきます。

ジェンナーは、発明した種痘法について特許を取得しなかったそうです。何故なら、特許により高価なものになってしまうとワクチンが多くの人々に行き届かないと考えたからです。ワクチンという人類に対するジェンナーからの贈り物を、これからも大切にしていきたいです。

◆肺炎球菌ワクチン予防接種

接種費用	①定期接種(下記の費用助成あり):1,500円(税込) ②特別接種():4,000円(税込) ③任意接種:9,350円(税込)
対象者	60歳以上
費用助成制度	(八王子市高齢者肺炎球菌予防接種費用助成制度) ・接種当日、八王子市に住民登録があり、過去に成人用の肺炎球菌ワクチンを一度も接種したことがない(1)または(2)に該当する方 (1)定期接種 ア. 年度末(2024年3月31日)時点で65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳である方 イ. 60～64歳で、特定疾患により身体障害者手帳1級相当の障害を有する方 (2)特別接種 65歳以上で上記定期接種の年齢に該当しない方 ※定期接種(ア)に該当する方には、市から予防接種助成券が送付されます。 ※定期接種(イ)または特別接種に該当する方は、八王子市保健所に事前申請していただき、予防接種助成券をご用意ください。
実施期間	2023年4月3日(月)～2024年3月29日(金)

◆带状疱疹ワクチン予防接種

接種費用	①予防接種券あり(下記の費用助成あり): 接種1回あたり11,000円(税込) ②予防接種券なし:接種1回あたり23,100円(税込) ※本ワクチン(不活化ワクチン)は、 2回接種 となります。
対象者	50歳以上
費用助成制度	(八王子市带状疱疹予防接種費用助成制度) ・接種当日、八王子市に住民登録がある50歳以上の方 ※八王子市保健所に事前申請していただき、予防接種助成券をご用意ください。
実施期間	2023年8月1日(火)～2024年3月29日(金)

【ご予約は、受付窓口または電話にてお受けいたします】

◇電話番号 042-626-5111 (代表)

◇受付時間 平日 9:00～17:00
土曜日 9:00～13:30